

やまのかたりべ 第 57 章 残雪の富士登山

自分の体力を確認する意味で、毎年恒例の富士登山。同じ時期に富士山に行くようになって数回目。そして下りでは大イベントの大滑り台を楽しむ。今年のゴールデンウィークは大型連休ということで、一か月前まではテントを背負って中央アルプス？北アルプス？どこに行こうか地図を見ながら楽しく計画を練っていた直前にまたまた腰痛がひどくなる。重いザックを背負うことを断念し、恒例の富士登山に急きょ変更。そして前日、営業先の方に薦められた整体院に体を診ていただく。富士山に行くことを伝えると良い返事は帰されないが、荷物を軽量にしていけば何とかなるだろう。無理なら途中で下山しようと思いつき富士登山決行！！そうと決まればレンタカーの手配。運よく予約できる。

<ポイント1>

今年は富士宮5合目のゲートが4月26日から朝7時30～PM18時30分まで時間制限で開通。年によって開通時期が多少異なるため事前確認が必要。無論、天気の状態で開通しない日もある。

5月3日(日) AM4時 起床

目覚ましが鳴る。あつという間の朝。私も夫も「眠い…眠い…」を連呼し、山の服に着替え出発。早く出発したものの睡魔に負け途中の高速パーキングで仮眠。車のナビタイムよりだいぶ遅れたがゲート開通時間にぴったり到着。すでにゲートの前には開通をまつ車の行列が多数…。



(ゲートは管理人の方が開けてくれます)



(5合目駐車場、景色堪能できます)

<ポイント2>

富士宮口ルート

日本最高点、剣ヶ峰への最短コース

富士山南面、静岡県側のルートが富士宮口。富士山本宮浅間大社が鎮座する大宮(現、富士宮)から頂上奥宮を目指す修道の道で、大宮口とも富士表口とも呼ばれる。実質的な登山起点は、富士スカイラインが登り着く新5合目(標高2400m)。富士登山口のなかでは最高所で、山頂への最短路として多くの登山者を集める。伊豆半島や駿河湾を背にする豪快な登高で、富士浅間大社頂上奥宮や富士山頂郵便局が建つ富士宮口山頂へ達する。ここから剣ヶ峰は、所要20分余りと至近距離にある。

富士宮口ルートは下山の専用道をもたないので、基本的には往路を下山する。天候がよければ、御殿場口下山道から宝永山経由で新5合目へ戻る周回プランも可能。

(JTBパブリッシング 富士五湖周辺の山あるき 参照)

AM8時10分 新5合目到着

昨年と比較すると、ここから見える積雪もかなり減っている。続々と駐車場に到着する車を眺めながら昨日作ったおにぎりで朝食をとる。登山者、スキーヤーより観光客の方が多く感じる。大型連休、登山者はアルプス、八ヶ岳を楽しんでいるのでしょうか？

AM8時30分 駐車場を出発

今回も飛鳥シリーズのピッケルを使用。雪山に何度か行かれて慣れている方であれば6合目まではアイゼン使用せず、キックステップのみでの歩行も可能。

AM8時50分 6合目宝永小屋到着

いつもは山小屋の前にも雪が残っているが、今年は既に土が姿を現している。ここから山頂方面を見上げて、下の方はところどころ富士の地肌が見える。ベンチに座り「ワンタッチアイゼン12P土」を装着。途中まで夏道を進むが、雪が溶けているため、我々は途中より雪のある方へと少しそれて山頂を目指す。



AM9時40分 新七合目

ここで小休憩の予定だが、夫「だめだ…眠い…」ということで再び仮眠時間。日差しはあるが足を止めると肌寒く、ジャケットを着用して旦那の目覚めを待つことに。20分後に再出発。

昨年は軽快に足を運んでいた夫でしたが、今回の富士登山、「息が上がる～」とのこと。8合目までは小屋と小屋の間で足を止めることなくゆっくりでも登っていたのだが、標高3000mを超えてしまった8合目の途中から、何度か立ち止まり上を向いて呼吸を整える…。以前は小屋と小屋の間で立ち止まる事はなかっただけに、かなり体力も肺活量も落ちている様子。

PM12時10分 9合目到着

上からスキー、シリセードで降りてくる方々もちらほら出てくる時間。12時過ぎ頃には山頂に着くであろうと思っていた私達。すでに時間オーバー。9合目から9.5合目の小屋まで一步一步進み続ける。夫は足は重くないが、呼吸がついてこないとの事。私は背後から応援するのみ…。

PM13時 9.5合目到着

紅茶を飲みながら山頂に向かうスキーヤー、登山者を眺める。「ここから山頂までが遠いんだよね～」と話す夫。ここまでもかなりの時間がかかっている。

いよいよ山頂目指して最後の出発……。

山頂付近、ところどころ岩肌が出ているので、アイゼンの歯が引っかからない様に注意が必要。

途中、EOJのピッケル(飛鳥シリーズ)を使用している方とすれ違い「柄の部分が伸縮できるのでストックとしても使えて便利です。こういう商品は他に見ないですよね」

とのお言葉を頂く。「嬉しい限りです。」



(9合目小屋より、近くて遠い山頂です)

PM13時45分 ゆっくりした歩みで御西様をくぐり山頂到着。

山頂はまだまだ雪が多く、山頂の道標も雪に埋もれている。もうだいぶ人も少ないかと思いきや、剣ヶ峰(富士山の一番標高の高いところ)の方に向かう方、そして剣ヶ峰にも多数の人を見る。

我々もしばらく、富士山頂を楽しむ。



(山頂は思ったよりまだまだ雪が残っています)



(剣ヶ峰にはたくさんの人影が)

PM14時10分 山頂出発

帰りの車の渋滞を覚悟しそろそろ下山しようと山頂を後に。

9.5合目までは急斜面のため、アイゼンを効かせて下山。

9.5合目からは、いよいよ！！

残雪富士山のお楽しみ大イベント、日本一の自然大すべり台を楽しむ。

PM15時25分 駐車場到着

毎年の事だが、この大滑り台の一気に下山は気圧の変化が激しいため、下山後に必ず頭痛に襲われる。

最初の頃は脳がおかしくなったのかと思うほどだったが、今ではその頭痛も恒例化に。

身体にはあまりいいことではないのかもしれませんがね。

下山後、今回の体力の衰えに肩を落としている夫。歳を重ねればなお一層の普段のトレーニングが重要。今年の富士登山を教訓に、来年も楽しく登りましょう。

富士宮	5 合目	8 時 30 分 出発
	6 合目	8 時 50 分 着
	7 合目	9 時 40 分 着
	8 合目	11 時 25 分 着
	9 合目	12 時 10 分 着
	9.5 合目	13 時 00 分 着
富士山頂		13 時 45 分 着
		14 時 10 分 出発
富士宮	5 合目	15 時 25 分 着

メンバー:松田次郎・留美



(日本一の滑り台)

富士登山パートII

その翌週、再び富士山へ登る事に。旦那の友人が残雪の富士に登りたいと言い出す。今年は雪が少ないので早々に行こう！！私も参加させて頂く。

今回の登山で数回上部から小石が転がって来た。この時期の富士登山はヘルメットは必須。もちろん、足元ばかりに気を取られず、上部にも気を配ることも必要不可欠。落石を見かけた時は「落(ラク)！落(ラク)！」と大きくな声で叫び、周囲の登山者に知らせるのが登山者としてのマナーだ。

8合目の山小屋で休憩していた時、突然の突風に夫のザックが吹っ飛ばされるという珍事が…。20メートル落下して運よく停止したザック。途中に落ちた小物類を回収しながらザックの元へ。外に付けていたカメラの液晶にははっきりひびが…。購入してまだ一年も使用していないのに残念！富士山の突風には要注意の見本だ。

今回は時間オーバーのため、山頂まであと数十メートルと言うところで下山を決定。ガスも結構出て来ていて10メートル先の視界が無くなる事も。

下山はもちろんソリ！滑るのに調度いい雪質で、快適に下降。先週より気持ちよく滑れた。下山の途中から上空でヘリの音が行ったり来たり…。6合目まで降りてもヘリの音は鳴り響く…。下山してきた人が「下山中に骨折した人がいたよ」と教えてくれる。上の方はガスに覆われホワイトの世界。救助も難航しているようだ。5合目に下る頃ところどころ青空が見え、ヘリの音も遠くへ移動して行く。無事救助が行われたようで本当によかった。



富士山での素敵な時間を共に過ごせた仲間達に感謝。

(左写真:下山してきたパーティー。尻尾ふりふり元気いっぱいなのわんちゃん。)